

VMware Cloud Director 10.2.2.1a リリース ノート

VMware Cloud Director 10.2.2.1a | 2021 年 10 月 12 日 | ビルド 18686837 (インストールされているビルド 18686238)

このリリースノートの追加事項や更新事項を確認してください。

このドキュメントの内容

- [新機能](#)
- [システム要件とインストール](#)
- [ドキュメント](#)
- [VMware Cloud Director 10.2.x の以前のリリース](#)
- [解決した問題](#)
- [既知の問題](#)

新機能

VMware Cloud Director 10.2.2.1a Express Patch リリースでは、VMware Cloud Director 10.2.2.1 で仮想マシンにハード ディスクを追加する際の問題が解決されています。詳細については、「[解決した問題](#)」セクションを参照してください。

システム要件とインストール

システム要件とインストール手順の詳細については、「[VMware Cloud Director 10.2 リリース ノート](#)」を参照してください。

ドキュメント

製品の完全なドキュメント セットを参照するには、「[VMware Cloud Director のドキュメント](#)」にアクセスしてください。

VMware Cloud Director 10.2.x の以前のリリース

[VMware Cloud Director 10.2.2.1 リリース ノート](#)

[VMware Cloud Director 10.2.2 リリース ノート](#)

[VMware Cloud Director 10.2.1 リリース ノート](#)

[VMware Cloud Director 10.2 リリース ノート](#)

解決した問題

- VMware Cloud Director 10.2.2.1 へのアップグレード後、[ハード ディスクの編集] ウィザードの [保存] ボタンがグレースアウトする

VMware Cloud Director 10.2.2.1 へのアップグレード後、仮想マシンに新しいハード ディスクを追加する際に、[ハード ディスクの編集] ウィザードの [保存] ボタンがグレースアウトし、仮想マシンのハード ディスクのプロパティを更新できません。

既知の問題

- **New:** VMware Cloud Director のインストール中にカスタマー エクスペリエンス向上プログラム (CEIP) を無効にした後でも、ステータスが **Enabled** になる

VMware Cloud Director のインストール中に、CEIP に参加するオプションを無効にすると、インストールの完了後に CEIP のステータスがアクティブになります。

回避策: 「[VMware カスタマー エクスペリエンス向上プログラムへの参加または離脱](#)」の手順に従って、CEIP を無効にします。

- **New:** NetApp ストレージアレイから NFS データストアをマウントすると、VMware Cloud Director アプライアンスの初期構成中にエラー メッセージを表示して失敗する

VMware Cloud Director アプライアンスの初期構成中に、NetApp ストレージアレイから NFS データストアを構成すると、次のエラー メッセージが表示されて操作は失敗します。

NFS のバックエンド検証が次のエラーで失敗しました: 不明なユーザーに所有されています

回避策: VMware Cloud Director Appliance API を使用して VMware Cloud Director アプライアンスを構成します。

- **New:** ブラウザで [LDAP] ページを更新しても、同じページに戻らない

Service Provider Admin Portal では、ブラウザで [LDAP] ページを更新すると、[LDAP] ページには戻らず、プロバイダ ページに移動します。

回避策: なし。

- **New:** 予約プール仮想データセンターを Flex 組織仮想データセンターに変換すると、仮想マシンが非準拠になる
予約プール割り当てモデルを使用する組織仮想データセンターで、一部の仮想マシンに CPU とメモリのゼロ以外の予約、CPU とメモリの無制限でない構成、またはその両方がある場合、Flex 組織仮想データセンターに変換した後でこれらの仮想マシンは非準拠になります。仮想マシンを再び準拠状態にしようと試みると、システムは予約と制限に関して誤ったポリシーを適用して、CPU およびメモリの予約をゼロに設定し、制限を [制限なし] に設定します。

回避策:

1. システム管理者が、正しい構成の仮想マシン サイジング ポリシーを作成する必要があります。
2. システム管理者が、変換後の Flex 組織仮想データセンターに新しい仮想マシン サイジング ポリシーを発行する必要があります。
3. テナントは、VMware Cloud Director API または VMware Cloud Director テナント ポータルを使用して、Flex 組織 VDC 内の既存の仮想マシンに仮想マシン サイジング ポリシーを割り当てることができます。

- **New: FIPS モードが有効な場合に vRealize Orchestrator を統合すると、無効なパラメータに関連するエラーが発生して操作が失敗する**

FIPS モードを有効にすると、VMware Cloud Director と vRealize Orchestrator 間の統合が機能しなくなります。

VMware Cloud Director ユーザー インターフェイスが「vro 要求パラメータが無効です」エラーを返します。API 呼び出しを行うと、次のエラーが返されます。

```
Caused by: java.lang.IllegalArgumentException: 'param' arg cannot be null at
org.bouncycastle.jcajce.provider.ProvJKS$JKSKeyStoreSpi.engineLoad(Unknown Source) at
java.base/java.security.KeyStore.load(KeyStore.java:1513) at
com.vmware.vim.install.impl.CertificateGetter.createKeyStore(CertificateGetter.java:128) at
com.vmware.vim.install.impl.AdminServiceAccess.(AdminServiceAccess.java:157) at
com.vmware.vim.install.impl.AdminServiceAccess.createDiscover(AdminServiceAccess.java:238) at
com.vmware.vim.install.impl.RegistrationProviderImpl.(RegistrationProviderImpl.java:56) at
com.vmware.vim.install.RegistrationProviderFactory.getRegistrationProvider(RegistrationProviderFactory.java:143)
at com.vmware.vcloud.vro.client.connection.STSClient.getRegistrationProvider(STSClient.java:126) ...136 more
```

回避策: なし。

- **vCenter Server 7.0 Update 2a または Update 2b にアップグレードした後、Tanzu Kubernetes Grid クラスタを作成できない**

基盤となる vCenter Server のバージョンが 7.0 Update 2a または Update 2b の場合、Kubernetes Container Clusters プラグインを使用した Tanzu Kubernetes Grid クラスタの作成に失敗します。

回避策: なし。

- **FIPS モードを使用時に、OpenSSL で生成された PKCS8 ファイルのアップロードがエラーで失敗する**

OpenSSL は FIPS 準拠のプライベート キーを生成できません。VMware Cloud Director が FIPS モードで、OpenSSL を使用して生成された PKCS8 ファイルをアップロードすると、アップロードは失敗し、「不正な要求: org.bouncycastle.pkcs.PKCSException: 暗号化されたデータを読み取ることができません: ... 使用できません: アルゴリズムがありません: ...」というエラーまたは「salt は 128 ビット以下にする必要があります」というエラーが表示されます。

回避策: PKCS8 ファイルをアップロードするには、FIPS モードを無効にします。

- **アップグレード後、VMware Cloud Director アプライアンス管理ユーザー インターフェイスの [システム構成] 画面が表示されない**

VMware Cloud Director アプライアンスをバージョン 10.2.2 にアップグレードした後、アプライアンス管理ユーザー インターフェイスの新しい [システム構成] 画面が表示されません。

回避策: この問題を回避して再発を防ぐには、ブラウザのキャッシュをクリアします。

- **Kubernetes Container Clusters プラグインを使用して Tanzu Kubernetes クラスタを作成すると失敗する**

Kubernetes Container Clusters プラグインを使用して Tanzu Kubernetes クラスタを作成する場合は、Kubernetes のバージョンを選択する必要があります。ドロップダウン メニューのバージョンの中には、バックアップしている vSphere インフラストラクチャと互換性のないものがあります。互換性のないバージョンを選択すると、クラスタの作成が失敗します。

回避策: 失敗したクラスタのレコードを削除し、互換性のある Tanzu Kubernetes バージョンを使用して再試行してください。Tanzu Kubernetes と vSphere の非互換性の詳細については、「[vSphere with Tanzu 環境の更新](#)」を参照してください。

- **組織内にサブスクライブされているカタログがある場合、VMware Cloud Director をアップグレードすると、カタログの同期に失敗する**

アップグレード後、組織内にサブスクライブされているカタログがある場合、VMware Cloud Director は公開されたエンドポイント証明書を自動的に信頼しません。証明書を信頼していない場合、コンテンツ ライブラリの同期に失敗します。

回避策: 各カタログ サブスクリプションの証明書を手動で信頼します。カタログ サブスクリプションの設定を編集する際、[初回使用時に信頼する (TOFU)] ダイアログが表示され、リモート カタログ証明書を信頼するように求められます。

証明書の信頼に必要な権限を持っていない場合は、組織管理者に確認します。

- **VMware Cloud Director をアップグレードして、Tanzu Kubernetes クラスタの作成を有効にすると、自動生成されたポリシーが使用不能になり、ポリシーを作成または公開できなくなる**

VMware Cloud Director をバージョン 10.2.2 に、vCenter Server をバージョン 7.0.0d 以降にアップグレードし、スーパーバイザー クラスタによってバックアップされるプロバイダ仮想データセンター (VDC) を作成すると、VMware Cloud Director で VDC の横に Kubernetes のアイコンが表示されます。ただし、新しいプロバイダ仮想データセンターには自動生成された Kubernetes ポリシーがありません。Kubernetes ポリシーを作成するか、組織仮想データセンターに公開しようとしても、使用可能なマシン クラスはありません。

回避策: 対応する Kubernetes エンドポイント証明書を手動で信頼します。VMware のナレッジベースの記事 [83583](#) を参照してください。

- **Setup DRaaS and Migration プラグインが、VMware Cloud Director ユーザー インターフェイスの上部のナビゲーション バーに 2 回表示される**

この問題は、vCloud Availability 4.0.0 が VMware Cloud Director Availability 4.0.0 にブランド変更されたため、2 つのプラグインが存在することが原因で発生します。VMware Cloud Director は vCloud Availability 4.0.0 プラグインを自動的に無効にしません。古いバージョンと新しいバージョンが、**[詳細]** の下の上部のナビゲーション バーに Setup DRaaS and Migration プラグインとして表示されます。

回避策: vCloud Availability 4.0.0 プラグインを無効にします。プラグインを無効にする方法については、「[プラグインの有効化/無効化](#)」を参照してください。

- **ラテン文字以外の文字を含む Kubernetes クラスタ名を入力すると、[新規クラスタの作成] ウィザードの [次へ] ボタンが無効になる**

Kubernetes Container Clusters プラグインは、ラテン文字のみをサポートしています。ラテン文字以外の文字を入力すると、次のエラーが表示されます。名前は文字で開始する必要があり、英数字またはハイフン (-) のみを使用できます。(最大 128 文字)。

回避策: なし。

- **TKGI クラスタのサイズを変更すると、データ グリッド内の一部の値が空白または該当なしとして表示される**
VMware Tanzu Kubernetes Grid Integrated Edition (TKGI) クラスタのサイズを変更すると、データ グリッド ビューの組織と仮想データセンターのクラスタの値が空白または該当なしと表示されます。

回避策: なし。

- **優先順位を使用してアドバイザリをフィルタリングすると、内部サーバ エラーが発生する**

VMware Cloud Director API を使用している場合に、アドバイザーに優先順位フィルタを適用すると、エラーが発生して失敗します。

```
"minorErrorCode": "INTERNAL_SERVER_ERROR" "message": "[ d0ec01b3-019f-4ed2-a012-1f7f5e33cb7f ] java.lang.String cannot be cast to java.lang.Integer"
```

回避策: すべてのアドバイザーを取得して、手動でフィルタリングします。詳細については、[VMware Cloud Director OpenAPI](#) のドキュメントを参照してください。

- **API ドキュメントに、アドバイザーの優先順位の並べ替え順に関する誤った説明が表示される**

アドバイザー モデル オブジェクトには、作成する各アドバイザーの緊急度を指定するための優先順位フィールドが含まれています。アドバイザー API のドキュメントには、優先順位が降順で並べ替えられていると誤って記載されています。VMware Cloud Director API ドキュメントには、アドバイザーの優先順位が昇順で表示されています。

回避策: なし。

- **NFS のダウンタイムによって VMware Cloud Director アプライアンスのクラスタ機能が誤動作することがある**

NFS 共有に空きがない、または読み取り専用になっているなどの理由で NFS が使用できない場合、アプライアンスのクラスタ機能が誤動作する可能性があります。NFS が停止している、またはアクセスできない場合、HTML5 ユーザー インターフェイスは応答しません。影響を受ける可能性のあるその他の機能として、障害が発生したプライマリ セルのフェンス、スイッチオーバー、スタンバイ セルの昇格などがあります。NFS 共有ストレージを正しく設定する方法については、「[VMware Cloud Director アプライアンスに対する転送サーバストレージの準備](#)」を参照してください。

回避策:

- NFS の状態を read-only にならないように修正します。
- NFS 共有に空きがない場合は、クリーンアップします。

- **マルチサイト環境で vCenter Server および NSX のリソースを追加しているときにエンドポイントを信頼した場合、統合証明書ストレージ領域にエンドポイントが追加されない**

マルチサイト環境で HTML5 ユーザー インターフェイスを使用しているときに、vCloud Director 10.0 サイトにログインするか、vCenter Server インスタンスを vCloud Director 10.0 サイトに登録しようとしても、VMware Cloud Director がエンドポイントを統合証明書ストレージ領域に追加しません。

回避策:

- 証明書を VMware Cloud Director 10.1 サイトにインポートするには、API を使用します。
- 証明書管理機能をトリガするには、VMware Cloud Director 10.1 サイトの SP Admin Portal に移動し、サービスの **[編集]** ダイアログに移動して、**[保存]** をクリックします。

- **vCenter Server バージョン 6.5 以前で名前付きディスクを暗号化すると、エラーが発生して失敗する**

vCenter Server インスタンス バージョン 6.5 以前の場合、新規または既存の名前付きディスクを暗号化が有効になっているポリシーに関連付けると、操作が失敗し、「このバージョンの vCenter Server では、名前付きディスクの暗号化はサポートされていません。」というエラーが表示されます。

回避策: なし。

- **Firefox で VMware Cloud Director Service Provider Admin Portal を使用している場合に、テナント ネットワーク画面をロードできない**

Firefox で VMware Cloud Director Service Provider Admin Portal を使用すると、組織仮想データセンターの **[ファイアウォールの管理]** 画面などのテナント ネットワーク画面の読み込みに失敗することがあります。この問題は、Firefox ブラウザでサードパーティの Cookie をブロックするように設定していると発生します。

回避策: Firefox ブラウザで、サードパーティの Cookie を許可するよう設定します。詳細については、「<https://support.mozilla.org/ja-JP/>」に移動し、ナレッジベースの記事「**Cookie が無効にされていると表示される**」を参照してください。

- **VMware vSphere Storage APIs Array Integration (VAAI) 対応 NFS アレイ上、または vSphere Virtual Volumes (VVols) 上に作成されている高速プロビジョニングされた仮想マシンを統合できない**

ネイティブ スナップショットが使用されている場合、高速プロビジョニングされた仮想マシンのインプレイス統合はサポートされません。VAAI 対応データストアおよび VVols では、ネイティブ スナップショットが常に使用されます。高速プロビジョニングされた仮想マシンがこれらのいずれかのストレージ コンテナにデプロイされている場合、その仮想マシンを統合することはできません。

回避策: "VAAI 対応 NFS または VVols を使用する組織仮想データセンターで高速プロビジョニングを有効にしてはいけません。"VAAI または VVol のデータストアにスナップショットを持つ仮想マシンを統合するには、その仮想マシンを別のストレージ コンテナに再配置します。

- **VMware Cloud Director 10.2.x にアップグレードした後、Cassandra から SSL 証明書をインポートすると、cell-management-tool がエラー メッセージを表示して失敗する**

cell-management-tool を使用して Cassandra から SSL をインポートすると、操作が失敗して次のエラー メッセージが表示されます。

VCD の SSL コンテキストをロードできません。

回避策: VMware Cloud Director Service Provider Admin Portal を使用して Cassandra から SSL をインポートします。詳細については、「[信頼された証明書のインポート](#)」を参照してください。